

自分の思いを言葉で伝えたり友達の話を知りながら遊びを楽しむ幼児の育成

— ごっこ遊びにおける幼児同士をつなぐ援助を通して —

特別研修員 幼児教育 田村智子（幼稚園教諭）



幼児の実態

- ・擬音語の多用や言葉の不足などにより思いが伝わりづらい。
- ・相手の思いを聞こうとしなかったり聞いても受け入れようとしなかったりする。



教師の願い

- ・相手に分かるように話し、思いが伝わる楽しさに気付いてほしい。
- ・友達の話に興味を持って聞いたり折り合いを付けたりしながら遊ぶ楽しさを味わってほしい。

探険ごっこをしよう（5歳児10月）

<手立て1>

○幼児の実態に合わせたごっこ遊びの設定

- ・経験を生かして友達と楽しめる探険ごっこを設定
- ・道具や材料の数や種類は意図的に少なく設定

○幼児同士をつなぐ援助

- ・代弁や仲介などの言葉掛けと思いを伝え合う場の設定



<手立て2>

○話を聞くための場の設定

- ・実態に合う絵本の読み聞かせ
- ・写真や具体物の提示
- ・話を聞くための座席配置の工夫

探険ごっこ

ピンクのビニールテープは、どこにあるの？



友達に聞く場面

材料の所だよ。なかったら先生に言えば大丈夫。

エルマーの動物島の木にしたい。〇〇君はどう思う？



思いを伝え合う場面

お話を聞かせて。この木をどんなふうにしたいの？



このままにして、探険ごっこがしたいな。

〇〇君は、このままがいいんだって。

勝手にやらないでよ！僕は、こっちに置きたいんだよ。



折り合いを付けた場面

順番だよ。今度は僕。

じゃあ、こういうのはどう？

そのやり方、いいね。



たくさん話していいアイデアが出たね！



おはなしタイム



このお話を読んだら、子どもたちのイメージが広がるな。

『エルマーのぼうけん』
ルース・S・ガネット 作
福音館書店



実態に合う絵本

こんな遊びをしていたね。



写真の提示

探険ごっこの望遠鏡を作ったのが楽しかったです。

長いのを作ったね。見た人いる？



インタビューの場面

成果（○）と課題（☆）

○思いの代弁や仲介などの言葉掛けをしたり、思いを伝え合う場を設定したりするなどの、幼児同士をつなぐ援助を繰り返したことで、相手を意識して自分の思いを言葉で伝えたり、相手の話を興味を持って聞いたりするようになった。

○おはなしタイムを設定し、場面に応じた座席を工夫して、実態に合う絵本の読み聞かせや、インタビューなどを行うことで「話す・聞く」楽しさを感じ、友達に思いを尋ねるようになった。

☆互いの思いが伝わらない場面では、すぐに仲介せず、自分たちで解決できるように、思いを伝え合う場や時間を十分に保障したり、伝え合う姿や折り合いを付けている姿を具体的に認めたりする必要がある。